

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年11月1日

**【四半期会計期間】** 第11期第3四半期(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

**【会社名】** 株式会社paperboy&co.

**【英訳名】** paperboy&co., Inc.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 佐藤 健太郎

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区桜丘町26番1号

**【電話番号】** 03-5456-2622(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役兼経営管理本部長 久保田 文之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第10期 第3四半期 累計期間		第11期 第3四半期 連結累計期間		第10期	
		自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日	自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日
売上高	(千円)	2,545,598		2,832,323		3,418,742	
経常利益	(千円)	529,436		544,927		709,655	
四半期(当期)純利益	(千円)	305,120		308,949		411,585	
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	-		308,763		-	
純資産額	(千円)	1,283,556		1,526,205		1,390,021	
総資産額	(千円)	2,822,638		3,167,928		3,001,443	
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	229.95		232.82		310.18	
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	229.05		231.92		308.90	
自己資本比率	(%)	45.5		48.2		46.3	
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	469,283		394,575		570,433	
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	117,799		193,202		242,910	
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	171,500		172,421		171,512	
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,810,257		1,815,236		1,786,284	

回次		第10期 第3四半期 会計期間		第11期 第3四半期 連結会計期間	
		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	75.32		76.62	

- (注) 1. 当社は、当第3四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しておりますので、第10期第3四半期連結累計期間及び第10期連結会計年度に代えて、第10期第3四半期累計期間及び第10期事業年度について記載しております。
2. 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、平成24年6月1日をみなし取得日としてコミュニティ事業の一部である電子書籍関連事業を営む株式会社ブックログを新規連結しております。

この結果、平成24年9月30日現在では、当社グループは、当社及び子会社1社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項に記載した将来事象に関する予測・見通し等は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであり、それらには不確実性が内在し将来の結果とは大きく異なる可能性があります。

また、第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、業績等の前年同四半期等との比較は行っておりません。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などを背景に、企業活動や個人消費の緩やかな回復の兆しがみられるものの、欧州の財政不安による世界経済の下振れの懸念や長引く円高などの影響により先行き不透明な状況が続いております。

半導体をはじめとする主要部品の供給不足や9月に発表されたiPhone 5の発売に伴うユーザーの買い控えなどにより、2012年4 - 6月期の国内におけるスマートフォンの出荷台数は前年同期比4.2%減の788万台と4四半期ぶりのマイナス成長となりました（IDC Japan調べ）。

一方、同四半期の総出荷台数に対するスマートフォンの割合は、前四半期からほぼ横ばいの65.3%と旧来の携帯端末からスマートフォンへの買い替え需要は根強く、好調を維持しており、それに伴い情報通信サービス市場も依然堅調に推移しております。

当社においては各サービスで基本スペックの向上、セキュリティの強化をはじめスマートフォンやSNS向けの機能拡充を行ったことで契約件数が伸び、当第3四半期連結累計期間は売上高・利益共に堅調に推移しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高2,832,323千円、営業利益534,141千円、経常利益544,927千円、四半期純利益308,949千円となりました。

#### （セグメント別の状況）

##### ホスティング事業

ホスティング事業については、レンタルサーバー各サービスにおいて基本スペックの向上やセキュリティの強化を行いつつ、積極的にキャンペーンを展開したことにより、当第3四半期のレンタルサーバー契約件数は365,000件（前四半期比7,000件増）となりました。また、レンタルサーバー契約件数の順調な増加に伴い、ドメインサービスも堅調に推移し、登録ドメイン数は、807,000件（前四半期比10,000件増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるホスティング事業の売上高は1,974,975千円、セグメント利益は647,759千円となりました。

##### EC支援事業

EC支援事業については、「カラーミーショップ」においてスマートフォン対応や「お願いカラーミー」

に寄せられたユーザーからの要望の高かった機能の追加、改善などを行いました。また、ショッピングモール「カラメル」では各種特集やキャンペーンを中心とした集客支援を行ったことにより、当第3四半期の「カラーミーショップ」契約件数は38,900件（前四半期比900件増）、「カラメル」の出店店舗数は20,200件（前四半期比600件増）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるEC支援事業の売上高は645,676千円、セグメント利益は322,575千円となりました。

#### コミュニティ事業

コミュニティ事業は、会員数2,540,000名にのぼるブログサービス「JUGEM」において、メディアポータルとして映画とのタイアップなどに注力し、PVの維持・増加を図りました。また、新たな施策として、Webフォントやテンプレートなどを個別に購入できる有料デザインパーツの販売を開始いたしました。加えて有料プラン「JUGEM PLUS」においては初期費用無料化キャンペーンを行い、会員数増加を図りました。その結果、当第3四半期の「JUGEM PLUS」契約件数は20,200件（前四半期比400件増）となりました。

また、ブックレビューコミュニティサイト「ブックログ」においても、基本機能の改善や登録できる書籍を増やす施策を行い、「ブックログ」の会員数は563,000名（前四半期比31,000件増）となりました。

電子書籍作成・販売プラットフォーム「パパー」では、「オンデマンド印刷」「連載機能」などの機能追加に加え、外部の電子書籍販売ストアへ作品を配信できる機能の提供を開始し、第一弾として楽天グループが運営する「Koboイーブックストア」との連携を行うなど積極的な機能追加を行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間におけるコミュニティ事業の売上高は211,671千円、セグメント利益は9千円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は3,167,928千円となりました。これは、主にサービス用サーバー投資に伴う有形固定資産やサービス用ソフトウェア開発投資に伴う無形固定資産が増加したこと、売上及び利益の増加により現金及び預金、売掛金が増加したことによるものであります。

負債は1,641,723千円となりました。これは、主に会員数等の増加により前受金が増加したことによるものであります。

純資産は1,526,205千円となりました。これは、主に四半期純利益の計上等に伴い利益剰余金が増加したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、1,815,236千円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは394,575千円の増加となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益の計上によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは193,202千円の減少となりました。これは、主に固定資産の取得や投資有価証券の取得によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは172,421千円の減少となりました。これは、配当金の支払及び自己株式の取得によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題は、以下のとおりであります。

(事業承継効果の早期創出)

連結子会社である株式会社ブクログは、平成24年6月1日付けで会社分割によりコミュニティ事業の一部である電子書籍関連事業を承継致しました。

今後、組織体制を整備し、当社グループとのシナジー効果等により、早期の事業承継効果の創出を図ってまいります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,500,000
計	1,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月1日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,327,200	1,327,200	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,327,200	1,327,200	-	-

(注) 提出日現在の発行数には、四半期報告書提出日(平成24年11月1日)の新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	-	1,327,200	-	120,867	-	110,867

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,326,000	13,260	-
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	1,327,200	-	-
総株主の議決権	-	13,260	-

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社paperboy&co.	東京都渋谷区桜丘町26番1号	200	-	200	0.02
計	-	200	-	200	0.02

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

また、当社は、第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、比較情報は記載しておりません。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年1月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成24年9月30日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,815,236
売掛金	492,149
その他	165,367
貸倒引当金	4,010
流動資産合計	2,468,743
固定資産	
有形固定資産	163,370
無形固定資産	176,365
投資その他の資産	359,448
固定資産合計	699,185
資産合計	3,167,928
負債の部	
流動負債	
未払法人税等	81,009
賞与引当金	1,600
役員賞与引当金	3,800
前受金	1,054,294
その他	488,391
流動負債合計	1,629,095
固定負債	
資産除去債務	12,628
固定負債合計	12,628
負債合計	1,641,723
純資産の部	
株主資本	
資本金	120,867
資本剰余金	110,867
利益剰余金	1,295,242
自己株式	586
株主資本合計	1,526,391
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	186
その他の包括利益累計額合計	186
純資産合計	1,526,205
負債純資産合計	3,167,928

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,832,323
売上原価	1,295,118
売上総利益	1,537,205
販売費及び一般管理費	1,003,063
営業利益	534,141
営業外収益	
受取利息	7
受取配当金	996
匿名組合投資利益	11,625
その他	742
営業外収益合計	13,370
営業外費用	
投資有価証券評価損	869
その他	1,715
営業外費用合計	2,584
経常利益	544,927
税金等調整前四半期純利益	544,927
法人税、住民税及び事業税	225,278
法人税等調整額	10,699
法人税等合計	235,977
少数株主損益調整前四半期純利益	308,949
四半期純利益	308,949

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	308,949
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	186
その他の包括利益合計	186
四半期包括利益	308,763
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	308,763
少数株主に係る四半期包括利益	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税金等調整前四半期純利益	544,927
減価償却費	85,265
投資有価証券評価損益(は益)	869
賞与引当金の増減額(は減少)	1,600
役員賞与引当金の増減額(は減少)	3,800
匿名組合投資損益(は益)	11,625
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,141
受取利息及び受取配当金	1,003
売上債権の増減額(は増加)	52,874
前渡金の増減額(は増加)	15,324
その他の流動資産の増減額(は増加)	704
前受金の増減額(は減少)	102,093
その他の流動負債の増減額(は減少)	32,536
その他	554
小計	724,314
利息及び配当金の受取額	1,003
法人税等の支払額	330,742
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>394,575</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	76,696
無形固定資産の取得による支出	86,861
投資有価証券の取得による支出	30,288
関係会社株式の取得による支出	5,100
敷金及び保証金の回収による収入	5,744
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>193,202</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
自己株式の取得による支出	68
配当金の支払額	172,353
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>172,421</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	28,951
現金及び現金同等物の期首残高	1,786,284
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,815,236

## 【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
連結の範囲の重要な変更 第2四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社ブクログを連結の範囲に含めております。

## 【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

当社は、第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しております。四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項は以下のとおりです。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
1. 連結の範囲に関する事項	連結子会社の数 1社 連結子会社の名称 株式会社ブクログ
2. 持分法の適用に関する事項	該当事項はありません。
3. 連結子会社の四半期決算日等に関する事項	連結子会社の四半期決算日は、四半期連結決算日と一致しております。
4. 会計処理基準に関する事項	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券</p> <p>(イ) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(ロ) その他有価証券</p> <p>a 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>b 匿名組合出資金の会計処理 組合出資を行うに際して、匿名組合の財産の持分相当額を「匿名組合資金」として計上しております。匿名組合の出資時に「匿名組合出資金」を計上し、匿名組合が獲得した純損益の持分相当額については、営業外損益に計上するとともに同額を「匿名組合出資金」に加減する処理を行っております。</p> <p>たな卸資産 貯蔵品 総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算出)を採用しております。</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p> <p>有形固定資産</p> <p>定率法を採用しております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。</p> <p>建物 3～15年 工具器具及び備品 4～20年</p> <p>また、平成19年3月31日以前に取得したものについては、償却可能限度額まで償却が終了した翌日から5年間で均等償却する方法によっております。</p> <p>無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能見込期間(5年)に基づく定額法を採用しております。</p>

	<p>長期前払費用 定額法を採用しております。</p> <p>(3) 重要な引当金の計上基準</p> <p>貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>賞与引当金 従業員及び役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、一定の基準による支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 四半期連結財務諸表の作成の基礎となった連結会社の四半期財務諸表の作成に当たって採用した重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、四半期連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(5) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金からなっております。</p> <p>(6) その他四半期連結財務諸表作成のための重要な事項 消費税及び地方消費税の会計処理 税抜方式によっております。</p>
--	--

## 【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金	1,815,236 千円
現金及び現金同等物	1,815,236 千円

## (株主資本等関係)

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月20日 定時株主総会	普通株式	172,510	130	平成23年12月31日	平成24年3月21日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額合計 (注)2
	ホスティング 事業	EC支援事業	コミュニ ティ事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,974,975	645,676	211,671	2,832,323	-	2,832,323
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,974,975	645,676	211,671	2,832,323	-	2,832,323
セグメント利益	647,759	322,575	9	970,345	436,204	534,141

(注) 1 セグメント利益の調整額 436,204千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	232円82銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	308,949
普通株主に帰属しない金額(千円)	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	308,949
普通株式の期中平均株式数(株)	1,326,991
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	231円92銭
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	-
普通株式増加数(株)	5,138
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月31日

株式会社 paper boy &amp; co.

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 松野 雄一郎 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 岡田 雅史 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社 paper boy & co. の平成24年1月1日から平成24年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年1月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社 paper boy & co. 及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。